

地域の活性化をになう **次世代のビジネスリーダー** を育成



SOTO-MANABI
動画公開中!

グローバルビジネス専攻

地域ビジネス専攻

公共政策専攻



企業経営や国際ビジネスの基礎知識や語学力、マナーなどを習得。グローバル視点でものごとをとらえられる幅広い視野と洞察力を養います。



経済・経営学の基礎知識を学習しながら、実際に地域を訪れて課題の発見・分析・解決のプロセスを体験。地域活性化のノウハウを習得します。



ビジネス現場での学びを通して、公的機関や社会起業家といった立場から地域の諸課題を発見・分析し、解決へ導く力を養います。

取得可能な資格・免許

- 高等学校教諭一種免許状「公民」「商業」〈国〉※ ○上級秘書士・上級秘書士(国際秘書)
 - 上級ビジネス実務士・上級ビジネス実務士(国際ビジネス) ○上級情報処理士
- ※ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

予想される進路 ※現代ビジネス学科は、2019年度に第1期卒業生を輩出します。

- グローバルビジネス専攻 企業の海外部門／外資系企業／ホテル／旅行・観光会社／NGO職員 など
- 地域ビジネス専攻 観光業界／地域金融機関／会社経営者／農業法人職員／NPO職員／大学院進学 など
- 公共政策専攻 県庁・市町村等の公務員／警察官／消防官／教員／一般企業／NPO職員／社会起業家 など

OPEN CAMPUS 2019

開催時間 11:00-16:30 受付開始 10:30(要予約)
※詳しくはホームページをご覧ください。

3/17sun 6/15sat・16sun 7/20sat・21sun

8/4sun・24sat・25sun 9/8sun 12/21sat

2020 3/15sun

入試直前相談会

開催時間 13:30-16:30 受付開始 13:00

10/19sat 11/9sat・16sat 12/21sat 2020 3/7sat

Program

- 学科紹介
- 日替り体験授業
- 学生生活総合相談
- 入試相談(AO相談含む)
- 保護者対象説明会
- 受験対策講座
- キャンパスツアー など

2019
DIGEST ver.

[ソトマナビ]

HYOGO UNIV.
Department of
Contemporary
Economic Studies

SOTO-MANABI

Planning file

「プロジェクト型学習」に
取り組んでいる
センパイたちの
活躍を一挙公開



ありがとうのプロフェッショナルへ。

お問い合わせ先 入学部 入学課

〒675-0195 兵庫県加古川市平岡町新在家2301

TEL:079-427-1116 E-mail:info@hyogo-dai.ac.jp

最新情報はホームページをチェック!

兵庫大学 受験生応援サイト

※機種によっては読み取れない場合があります。



兵庫大学 現代ビジネス学科

高砂銀座商店街 プロジェクト

2017/11/18sat

現代ビジネス学科 地域ビジネス専攻3年
杉岡 千佳さん 兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校出身高砂銀座商店街 前会長
木村 重夫さんGEN-BIZ
Q&A
01「現代ビジネス学科」って
どんな学科？

実践形式で経済・経営学を学ぶ学科です！

経済・経営学の専門知識を学び、その知識を実社会の中で身につけるために1年次から地域へ赴いてプロジェクトを実施。これらの経験を積み重ねて、ビジネス現場でも通用する実践力を磨きます。

若い世代が地域を離れ、活気を失った商店街で、

どのような仕組みで賑わいを取り戻すのか。

プロジェクトに関わる先輩や、地域の方たち、それぞれの想いを込めた
企画が動き出しました。高砂という地域に
可能性を感じて杉岡さんが取り組んでいるプロジェクトについて
お聞かせください。

杉岡さん：私は今、高砂銀座商店街の活性化に取り組んでいます。高砂に住む親戚でさえこの商店街のことは詳しく知らないんです。まずは現地のことを知る必要があると感じて、プロジェクト開始当初に、何度か視察に行きました。30年ほど前の地図を手がかりに、現在の出店状況を調査。高砂にはレトロな雰囲気や建物や指定重要文化財など、若い人にとって新鮮に感じるものが眠っているんです。それらの要素をどう活性化につなげるかがこれからのポイントだと思っています。

一方で木村さんは、なぜプロジェクトに協賛しようと思ったのですか？

木村さん：商店街を再生しようという動きが出てきたのが6年前くらいですかね。集客をして、出店につなげることが最大の課題でした。当時、商店街の活性化を手伝ってくれていた若いボランティアの方が「朝ごはん市」を考案しました。集客には成功したのですが、また新たなアイデアでお手伝いをいただきたいと声をかけたのが兵庫大学でした。

なぜ兵庫大学に頼もうと思われましたか？

木村さん：商店街が活況だった頃から、時代は変わりました。10年後には現場を退く私たちが、いくらアイデアを考えたとしても次の時代につなげていくのは難しいでしょう。バリバリと活躍しているであろう学生さんたちの世代が中心となって将来のことを考えるべきだと、私は思います。だから、学生さんたちのアイデアを必要としたんです。

プロジェクトでは、具体的にどのような取り組みを
されたのでしょうか？

杉岡さん：先日、集客を目的とした朝ご飯&手作り雑貨市イベント「朝ごはん市」が開催されました。私はその中の「高砂染め体験コーナー」のスタッフとして参加。朝ごはん市は月に一度開催されているので、今回は企画段階から参加しようと思っています。木村さんから「自由に意見を出してほしい」と言っていたので、高砂染めを知らない方もいたので、出張体験会を開催するのでもアリですね。

私らしい目線で
集客できる仕組みを

これからの目標をお聞かせください。

杉岡さん：継続して集客できる新たな仕組みをつくって商店街全体の発展につなげる、ということまで行きたいですね。そして「ありがとう」と言ってもらえたら最高です！（笑）こういう学びの機会がいただけるってうれしいことです、自信にもなりますね。

木村さん：前回、杉岡さんにはお手伝いとして参加してもらいましたが、次回からは「朝ごはん市」のミーティングから参加してもらおうと考えています。出来上がったものを言われるままに手伝っても、きっと面白くないでしょうし、私たちが思いつかないアイデアをどんどん教えてほしいですね。



プロジェクトの最新情報をご報告！

Express report 2019

商店街から地域全体の活性化へとスケールアップ！

お話し：現代ビジネス学科 地域ビジネス専攻3年 足立 唯斗さん

現在は、地域全体の活性化をめざした「高砂元気プロジェクト」が進行中。近頃大型ショッピングモールが閉店し、買い物難民が出ているということを聞きつけました。そこで住民の方にアンケートを実施し、新たな出店の糸口を探っている所です。スケールが大きくなって難しい部分もありますが、前向きに取り組んでいます！

未来に活きるアイデアで
商店街の明日をつなぐ。

社会人としての自覚。企業との関わりで芽生える

アポ取りから取材、制作、プレゼンまで、
すべての過程を学生自身で進行。
企業の方々と直接関わりながら、自分の姿を見つめ直します。

学生が主体となって、 ゼロから作り上げる。

窓の外は一面オーシャンビュー。開放感のあるホテル
セトレ神戸・舞子の一室で、名刺交換から取材は始まる。
「渡すだけなのに、緊張しますね」と、はにかむ本郷さん。

志プロジェクトは一言で言うと『学生向けの企業紹介
パンフレットを学生目線で制作する企画』であり、企業と就
活生のニーズの違いによるミスマッチを減らすことをねら
いとす。企業に赴いて取材や撮影を実施し、集めた情報
をもとに制作に取り組む。「取材は2回目なんです。初回は
ホテルセトレの母体である株式会社ホロニックの全体像に
ついて長田一郎社長にお話しいただきました。今回は、そ
こで働いている人にスポットを当てようということで、入社
1年目の方とその先輩に話をお聞きすることになりました。
取材では、仕事に対する姿勢や、やりがい、喜びなど
をヒアリング。立場の違う二人に話を聞いたのには訳が
あるとか。「このあいだまで就職活動をしていたという身近
な立場からの意見と、社会をある程度経験された上での
意見、二つの視点から企業を紹介するためです。得られた
情報をどのように読者に見せていくのかといった点を考え
ていくのが、次の作業となる。

社会人と学生、 その差を実感。

ご協力いただいた社員のお二人は、ウェディング関係の
お仕事をされている。「人生の大きなターニングポイント
に携わる職業なので、お客さまの一言一言に重みを感じ
ながら働いているとおっしゃっていました。自分はどうや
って取材をさせてもらっていても、重みという感覚はつか
めていなくて。その感覚の違いが、学生と社会人の差なん
でしょうね」。前回の取材で本郷さんは撮影担当だったよ
うで、取材者として話を聞くのは今回が初めてのこと。

「取材する側に立つと、話の聞き方が変わりました。それに、
お二人を見ているとすぐく仲が良さそうで、立場を超えて
意見を言い合える雰囲気や人同士のつながりを大切に
する社風であることがよく伝わりました」。企業の魅力は、
言葉以外からも拾うことができる。「私自身がいいなと
思ったポイントを、魅力としてしっかり形にしていきたい
です」。この授業を通して地域の企業を知り、プライダル
業界について学びながら、併せて社会人になるための
基礎力や話し方なども身につけていきたいと意気込む。

話を聞いた後は仕事風景を写真におさめて、取材が終了。
「せっかくこんな機会をいただいているので、良いパンフ
レットを作りたいですね」。大役を終え、どこかホッとした
表情で答えてくれた。パンフレットは2019年2月に公開
される。



file.02

志プロジェクト

2018/7/5thu

現代ビジネス学科 グローバルビジネス専攻3年
本郷 亜咲さん 大阪府立池田北高等学校出身



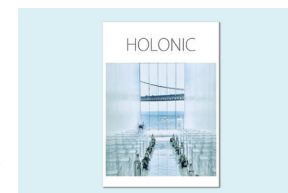
プロジェクトの最新情報をご報告!

Express report 2019

自分たちが興味を持ったポイントを盛り込んで編集を

お話：現代ビジネス学科 地域ビジネス専攻3年 杉岡 千佳さん

取材後は「どうすれば就活生が興味を持つか」を考えながら聞いた内容を整理し、パンフレット全体の構成を話し合いました。基本的な情報にプラスして、私たちが良いなと思ったポイントも盛り込むようにしました。実際に印刷物として世に出て行くので、他のプロジェクトとはまたちがう達成感を味わうことができましたね。



GEN-BIZ
Q&A
02

「SOTO-MANABI」って
何を意味するの？

地域で実践力を養うオリジナル授業のこと!

企業や地域へ赴き、実社会の中で学ぶ。つまり、大学の「ソト」で「マナビ」を展開する「プロジェクト型学習」を指します。担当者たちと共に課題を発見し、解決していく力を養う、本学科オリジナルの実践型学習のことです。

加古川てらこや プロジェクト

2018/8/26sun



現代ビジネス学科 地域ビジネス専攻3年
清水 風馬さん 東洋大学附属姫路高等学校出身



GEN-BIZ
Q&A
03

「どんなプロジェクト」が
他にあるの？

地域のニーズに合わせたプロジェクトを実施中！

今回紹介した3つのプロジェクトの他にも、日岡山公園で開催された「親子 de 謎解きアドベンチャー」や稲美町の「いなみ de Wedding」を運営するなど、地域各地でたくさんのプロジェクトが動いています！

一つのイベントを、自分たちが先頭に立って運営する。

手探りで突き進んだ先に見つけた

確かな手応えを糧に、また、次へと向かいます。

**何度も打ち合わせを重ね、
当日を迎える。**

朝10時で気温が30度を超える、8月最後の日曜日。猛暑にもかかわらず、55名もの小学生たちが国宝「鶴林寺」(加古川市)に集まった。大人、若者、子どもの3世代による地域総がかりの教育を目的とした「加古川てらこや」プロジェクト。これは、現代ビジネス学科の学生が事業企画・財務・広報・マネジメント・リーダーシップなど、ビジネスの基本要素を学ぶプロジェクト型学習の一環であり、加古川青年会議所の有志と共催するイベントだ。座禅、精進料理、茶道、スタンプラリーと、さまざまな体験を通して、大人・大学生・子ども3世代の交流を図ることがねらい。「青年会議所の方は週1ペースで打ち合わせをして、内容を詰めていきました。10回以上はやったと思いますけど、それでも足りなくて夏休みも集まりましたね」と清水さん。

共催とはいえ、基本的には学生が前に立ち、対外的な交渉から予算組みまですべてを担う。「まずは『子どもたちに何をやらせようか』から決めていきました。はじめは遊びのアイデアばかり出ていたのですが、青年会議所の方から『鶴林寺ならではの体験をしてはどうか』と打診があって、座禅や茶道の体験を採用したんです。スタンプラリーは鶴林寺の歴史にまつわるクイズにして、地域への理解を楽しく深められるものにしました。今回は小学1~6年生と、幅広い年代が集まった。学習進度に差がある中でも、誰もが楽しめるように意識してつくられている。

**すべてが終わってから
見えてきたもの、得られたもの。**

「僕はタイムスケジュールを組む担当だったので、イベントがきちんと進行するか不安でした。何時にプログラムを終えて、スタッフは何時に集合して・と時間や配置を考えて形にしていくなんて、やったことがなかったです。今振り返ってみると無駄だと感じる時間が多かったですね。例えば、スタンプラリーは早い子だと半分の時間で終わり、手持ち無沙汰にさせてしまったんです」と、反省を口にする。「学生同士の情報共有も上手くいってなかったかなと思います。一通り終わって、やっとそういう部分が見えたって感じです。やらないと分からない。青年会議所の方とまた別のプロジェクトに取り組む計画があるので、指示の与え方とか、人の動きの考え方とか…今回学んだことを次に活かしたいですね」と、先を見据えていた。

「やっぱり、達成感ありますよね。無事に終わった安堵感と喜びが、溢れていた。「自分たちが考えたことを子どもたちが楽しんで取り組んでくれている姿を見られましたし、実際に『楽しかった!』と言ってもらって嬉しいです。後はみんなで打ち上げをしたいですね(笑)」。清水さんの挑戦は、続いていく。



プロジェクトの最新情報をご報告！

Express report 2019

反省点を2回目につなげ、手応えのあるプロジェクトに

お話：現代ビジネス学科 地域ビジネス専攻3年 浜崎 幹也さん

鶴林寺の住職から直々に声をかけていただき、1月に第2回を開催！初回はメンバー間の情報共有不足が目立ち、その日の夜に反省点を話し合いました。2回目は全員が全体像を把握していたので、何が起きても臨機応変に対応ができ、スムーズに運営できました。地域のつながりづくりにも貢献できたなと手応えを感じています。



自分たちで進めていくという
責任の先にある、達成感。